

## 現法王・前法王の動静

大ローマ布教所長  
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

法王、テレビ・インタビューに答える

ローマ法王フランチェスコは、2022年2月14日、イタリア放送局のファビオ・ファツィオによるインタビュー要請に応じ、カソリックの教えや自らの考えを披瀝した。

「友達はおられますか？」という問いに対して、フランチェスコは答えた。

私はごく普通の人間なので、友達と一緒にいるのが好きですし、それは必要なことです。だから、私は歴代の法王が住んだ、法王用の館には行きませんでした。歴代の法王たちは聖者のような方ばかりですが、私はそうではありません。友達は少ないけれども、彼らは真の友達ばかりです。

また、世界の動きについてはこう答えた。

まず第一に移民の問題があります。かつて「収容所」がリビアにあり、移民を罪人と見なしていました。EUは難民問題でここ数年やっと動き出したが、まだ、イタリア、スペインに任せきりという状態のようです。地中海はゴムボートに乗った難民で溢れ、しかもそれが転覆して多くの死者を出しています。こういう状態でも、多くの人は「我関せず」という態度をとっている。1年間武器を製造しなければ、その製造に当てる金を、飢える子供、難民、貧者、食料のない人たちに与えることもできるし、教育も授けることができるでしょう。戦争というのは、イデオロギーの対立、権力の対立だけではなく、商取引の対立、すなわち商業戦争であり、そして軍備工場の対立なのです。

さらに、ロシアとウクライナの戦争危機（当時はまだロシアの侵攻前だった）に関しては、聖書を引用しつつ、次のように述べた。

アベルとカインの出来事には、創造に対する反対、つまり破壊の意識があります。戦争はいつも破壊のみです。そのような時こそ、「痛みを分け合う」ことが大切です。医師や看護師は、コロナのパンデミックの中であって、自分の命を投げ打って悪に直面し、患者たちのもとに残ることを選択しました。

また、法王は音楽に興味を持っていることを明らかにした。特に古典音楽とタンゴに興味を持ったという。子供の頃には、プエノスアイレスの他の子供達と同じように踊っていた。プエノスアイレスではタンゴを踊れない男の子は男の子とは見なされない。出来の悪い子供はすぐにパパやママに助けを求めてしまう。パパやママのように神は強い。神は愛において絶対的な力を持っている。逆に、妬みや破壊は悪をたくらむ連中の手のなかにある。そう法王は語った。

前法王ラッツィンガー、小児愛症神父に目をつぶる

ラッツィンガー前法王（ベネディクト16世）は2013年に法王を辞職し、今はヴァチカン内の修道館で、法王時代の秘書ゲオルグ・ゲンスバインと彼の生活の世話をする4人の修道女と暮らしている。ドイツ・ミュンヘン司教区の調査で、1945年～2019年の教会内の諸問題が、2022年1月21日に公開された1893ページにも上る報告書で明らかにされた。その中

に497件もの小児愛症事件が収録されている。被害者の60%が、8歳から14歳までの未成年者、犯罪者235人のうち、173人が司祭、9人が助祭であった。1977年～1982年の初頭にかけてミュンヘンの大司教を務めていたラッツィンガーにとっては、これは避けられない問題だった。この報告書を作成したヴェストファール・シュピルカー・ヴァストル法律事務所は、前法王は大きな過ちを犯したと非難している。それによると、前法王は、それら497件の事件中、4つの事件を無視した過ちがあるというのだ。

現在94歳の前法王は、この報告書中の自分の関連事項を見て、自分には関係ないことだとすべての糾弾を否定した。その秘書の談話は次の通りだ。

ベネディクト16世は1月21日午後の時点では、報告書については何も知らない。近日中に細心の注意を払って、内容を吟味するであろう。前法王は、常に小児愛症事件に対して動揺し、対面を傷つけられたことを非常に心配していた。前法王は法王時代に教会の司祭によって起こされた小児愛症事件を非常に憂えており、その被害者を心配し、自分は彼らを助けるために彼らのそばに寄り添っていると言い、また彼らのために祈っていた。

ヴァチカン側は、これらの事件を調査して、正しい判断を下すと述べた。そしてその上で、一連の不祥事を恥じ入り、良心の呵責を表明したいと言明している。

その後の調査で、前法王ラッツィンガーの見過ごしは4件中、2件はすでに裁判所にも知られていたようだ。例えばフレルマン神父は、1973年～1996年の間に、8歳から16歳までの未成年者に性的虐待を行っていた。彼は1980年にエッセンからミュンヘンに移動して、精神療法を受ける予定だったが、1980年1月15日、ラッツィンガーも出席した会議での記録文書では、「異常無し」ということでミュンヘンで従来の生活に戻った。しかし、ミュンヘンでも彼の小児愛症行為は続いていたのだ。ラッツィンガーは最初、この日の会議には出席していなかったと表明したが、後日、彼は出席していたと訂正し、謝罪した。この謝罪と言うことは内容がどうであれ、自分について「謝罪」したのは歴代の法王の中でも唯一の事例である。前法王は裁判が行われれば、出席すると言明している。

ウクライナ戦争に関連して

本稿執筆時の3月3日現在のカソリックのウクライナ支援の状況は、次の通りである。

カソリックは3月2日より復活祭の準備のための五旬節に入った。そこでの「我々の祈りと断食」がウクライナの平和のためにも寄与するはずだと、現法王は断食の日の重要性を語った。そして、その断食の実行を、カソリック信者、非カソリック信者に訴えた。それはすべての人への呼びかけなのだ。法王の声にイタリアの政治家たちも動いた。3月2日には、早くも国会議員270人が集まり、ウクライナ戦争の終結と平和を祈った。ヴァチカンからの救援物資も間もなくウクライナに到達する見込みである。